



# いちいの会 だより

平成31年  
50号

発行/社会福祉法人 いちいの会

<http://www.ichiinokai.com/>

ICHIINOKAI VOL. 50



関宿城にて

## 新年度に向けて

社会福祉法人いちいの会 理事長 児嶋 政明

皆さま、こんにちは。

春爛漫の中で、4月1日から新年度が始まりました。この機会に昨年度を振り返るとともに、新年度の展望についてご説明したいと思います。

まず、昨年度は「笑顔」をテーマに運営してまいりましたが、おかげさまで、当法人の5つの事業はおおむね順調に推移いたしました。また、社会福祉法に従ってガバナンスの強化や透明性の確保などの対応を進めるとともに、地域社会に貢献する取組みとして、「障害児（者）発達検査の無償実施、利用者負担費用の一部減額、専門的な研修会の無料開催などを実施いたしました。

利用者にとって快適な利用環境と、職員が気持ちよく働ける職場環境の整備に取組みました。具体的には、くすのき苑をはじめ各事業所での建物・設備の整備を進めたほか自動車を2台購入しました。また、職員を2名増員するとともに育児介護休業制度を見直して利用しやすく改正しました。11月のくすのき祭には地域のみなさまや関係者のみなさまに大勢お越しいただいて賑わいました。みなさまありがとうございました。

新年度においても、引き続き「笑顔」をテーマにするとともに、ガバナンスの強化や透明性の確保、地域社会に貢献する取組みを進めます。

経済的には、給付費などの収入がほぼ横ばいと見られる一方で人件費などの費用がかなり上昇すると予想されており、法人の経営は楽ではありません。厳しい環境の中、慎重に舵を取ってまいります。

環境整備では、各事業所の設備の整備を進めるとともに、くすのき苑の中庭を増築して厨房や食堂などを拡充するべく本格的な検討に取組みます。また、人材の確保と育成にも注力いたします。

新年度も役員一同力を合わせて、設立理念の「利用者第一の充実した支援サービス」と「地域の期待への対応」にむけて着実な努力を重ねていく所存ですので、皆さまには引き続きのご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 目次●
- ◇理事長 挨拶……1
- ◇家族会「環境整備」事業所だより……2
- ◇事業所だより……3
- ◇特集  
クラブ活動  
販売会 ……4
- ◇行事いろいろ  
職員日記……5
- ◇新任職員紹介  
いらっしやいの会  
行事報告  
編集後記 ……6



# 新年度を迎えて



## 家族会より「環境整備」

家族会事務局長 大野 祐子

日ごろから家族会活動にご協力をいただきありがとうございます。毎年行っております環境整備ですが、総会資料にあるとおり9回の実施を予定しております。この中の何回でも結構なので皆様のご参加をお願い申し上げます。11月に行われるくすのき祭りに向けて、苑内の環境を少しでも良くしよう！ということで行っている環境整備ですが、庭の清掃だけではなく、縫物やガラスふき、芝桜の手入れ、お花の植え付けなども行っています。苑内に入って子供たちの気配を感じながら作業をするのは苑内の様子を知ることにもなりますし職員の方とのコミュニケーションのチャンスにもなると思いますので是非ご参加ください。

さて、「環境整備」は保護者の高齢化や各自の事情により参加される方はあまり多くはなく、参加してくださる方はいつも一緒・・・という現状があります。このような中、これからを考えますと「高齢化が進みやりたくても出来なくなった時がきたら・・・」などと色々な課題が浮かんできます。「環境整備」は「家族会活動」と置き換えても良いのかもかもしれません。それは深く考えると簡単に答えが出る問題ではなく、全体で考えなければいけない事だと思っています。このような中ですが、今年度も皆様のご協力の元進めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## くすのき苑

副施設長 戸邊 泰介

はっと気が付くと、いつのまにか新年度を迎えている、毎年そんな感覚です。

くすのき苑も早いもので、今年で開所19年目を迎えます。来年のオリンピックイヤーでちょうど20周年ですね。

開所当時は若かった利用者の皆さんも、それなりのお年になりました。いつも一緒にいると、あまり変わりはないように思ってしまうのですが、改めて過去から振り返ると、この20年弱の間に身に付けたこと、逆に衰えてきたところ、やっぱり変わらないところ、それぞれのかたちで年齢を重ねてきたことがわかります。10年ほど前は、課題として掲げながらもあまり想像がつかない利用者の方々の高齢化についても、ここ数年では実感としてとらえられるようになりました。

全体的な傾向としては、安全面や、身体面に対する配慮への比重がとて高くなってきました。そんな変化に合わせて、現場では日々、支援の内容を見直したり、設備の改修を進めたりしています。今後数十年も、皆さんに楽しく元気に過ごしていただく。そのための準備をする節目の時期にさしかかったと感じています。困難なこともあります。ひとつひとつの課題を着実に解決していければと思います。

ご家族をはじめ、苑内外の皆様のご協力もいつも本当に感謝しております。

今後ともよろしくお願いいたします。

## ワークショップくすのき

ワークショップくすのき副施設長 大谷 篤司

1989年、当時の官房長官小淵氏が「平成」と書かれた額縁を掲げた時、私はまだ小学校3年生でした。成人を迎えた時には、ミレニアムの2000年、平成を代表する出来事の一つバブル景気で豪遊。といったことをほとんど味わったことはありませんが、テレビで平成を振り返るような番組を見ていると一つの時代をそれなりに楽しく過ごすことができたのだらうと思います。

平成18年にくすのき苑の分場として始まった「ワークショップくすのき」は、12年目を迎えています。運営開始からこれまで、生産活動を中心に活動を提供してきました。しかし、年数を重ねるごとに、利用者の年齢層や特性も変容しつつあります。それに応じて、求められる支援の幅も広がりつつあることから、提供する活動を見直していく時期に入ったと感じています。地域の期待に応えるためにも、新たなサービスの展開や定員を増やすための体制を整える年にしたいと考えています。

ひとつの時代の終わりを迎え、新しい時代が始まりました。ここ近年では、目まぐるしく制度が変わり、法律が整備され、サービスの幅が広がり、私達に多くのものが求められるようになりました。時代が変わろうと利用者の方達の安心した暮らしを支えることに変わりはありません。私達が変わっていかなくてはならないのは、「与えられたミッションをミッションに変えていくこと。そして、思い描いたビジョンを形にしていくこと。」そういったことを念頭に置いて仕事に邁進していきたいと思っています。



## グループホームかえで

生活支援係長 金 隆史

私たちの法人、いちいの会は千葉県の北西部、チーバ君で例えるならちょうど鼻先にあたる所、野田市にあります。野田市は「醤油の町」として知られており、国道16号沿線には、多くの工場が立ち並ぶところに法人があります。いちいの会では平成18年に初めてのグループホーム「かえで」の開所を皮切りに、現在では5つのグループホームに24名の方が生活をされています。

私自身、平成16年度にいちいの会に入職し、これまでは入所施設の所属でした。昨年度の3月より前任者との引継ぎを積み重ねていく中、地域の中で利用者が生活をしていく意義、支援者の重要性について、改めて感じております。

初めのグループホームが開所をしてから13年が経ちました。その間に私自身も年齢を重ね、年々体力の衰えを感じるようになってきました。ホームも同様に、改修や増築を図りながら、利用者の方とともにその歴史を積み重ねてきました。これまでの経過をしっかりと振り返り、生活をする利用者の方々の生活が今よりもより良くなるように努めていきたいと思っております。

## 中核地域生活支援センターのだネット 地域総合コーディネーター 五十嵐 孝子

中核地域生活支援センターが平成16年10月に開設されてから今年で15年になります。のだネットの相談件数は最初の3年で急速に増えて行きましたが、その後は年間、電話対応も含め約9千件で、横ばい状態が続いています。現在の体制で丁寧に対応していける限界の数を感じています。今年度はその相談の中身についてより詳しく検証していきたいと思っています。そうすることで本人・家族・行政・関係機関が何に困っているのかが明らかになり、のだネットに期待されていることが明確になると考えています。

野田市では、痛ましい虐待事件が記憶に新しいところです。市では再発防止のため「野田市児童虐待事件再発防止合同委員会」を設置し対応に取り組んでいます。国の方では、子ども分野の新資格をめぐる議論が起こっています。配属人数や有資格者が満たされれば虐待が減るのか…。誰かがやってくれるだろうと考えないで、自分がやれる事はないだろうかとアンテナをはり、身近な所から取り組んでいく事が大切だと感じています。

今年度も相談者からのSOSを見逃さないよう支援してまいります。

## 相談支援センターいちいの木

相談支援専門員 中村 成彦

平成24年度に開設し、平成31年度で8年目に入ります。相談支援センターいちいの木では特定相談事業と千葉県障害児等療育支援事業を行っています。特定相談支援事業は障害児・者のケアプランを立てサービス等利用計画書を作成します。登録者数は323名ですが、他県他市に引越された方、障害福祉サービスを終了した方、介護保険サービスに移行した方等で現在の登録者数は258名です。障害福祉サービスを終了した方でも再度、利用したいとの話しがあり、復活する方もいます。最近、増えてきた案件が高齢になり介護保険サービスに移行・併用する方です。地域包括支援の方や介護支援専門員の方との打ち合わせや話し合いが増えてきています。

千葉県障害児等療育支援事業では、相談員が学校・保育所・幼稚園・親等から相談を受け学校等に訪問、親や保育士・先生等との面談を行い、必要がある場合は、知能検査を無償で行っています。最近、学校や親からの相談も多く、WISC-4の検査等を行っています。

8年目に向け、野田市内にも生活介護事業所等の福祉サービス事業も増えてきており、野田市内に在住の障害児・者の方もサービスが選べる時代に入ってきているので、障害児・者や親との面談時にいろいろな情報を伝えられるようにしたいと思います。



# クラブ活動

## 絵画クラブ



四季折々の貼り絵を作成しています

## 調理クラブ



クッキーやホットケーキを作ります

生活支援員 霜田 侑弥

くすのき苑では毎週水曜日の午後、利用者さんに娯楽を提供し楽しんでもらう事を目的としてクラブ活動を行っています。ドライブとカフェを楽しんでもらうことを目的とした喫茶クラブ。ストレス発散！自分の好きな歌を歌ってもらうカラオケクラブ。おやつを自分で作り、自作のおやつを食べて楽しむ調理クラブ。皆で大きな絵を作成して、季節を楽しむ絵画クラブの4つのクラブです。職員と一緒に皆さんが楽しんでもらえるようにこれからも日々努力していきたいと思えます！

## 喫茶クラブ



おいしいね



## カラオケクラブ



熱唱中！

## ベルクス販売会

主任生活支援員 秋山 直樹

4月、11月を除いた毎月第2土曜日。この日に定期的に開催されているイベントをご存知でしょうか。そうです。いちいの会のくすのき苑、ワークショップくすのきで作っている製品、食品の販売会が開催されているのです。場所は東部アーバンパークライン七光台駅に隣接する、ベルクス野田七光台店様口ビー。本革を使用した革製品や、牛乳パックを再利用したエコな箸置き、ティータイムにはうってつけの手作りクッキーやシフォンケーキ等、いちいの会自慢の製品を利用者の方と職員で元気に販売しております。お近くにお立ち寄りの際は是非お気軽にお立ち寄りください。そこにはあなたの知らない、もしくは良く知っているいちいの会がありますよ。







## クリスマス会



生活支援員 田鍋 智枝

12月21日、くすのき苑でクリスマス会を行いました。利用者の笑顔溢れるクリスマスツリーを飾り、「くすのきダンサーズ」がノリノリでダンスを披露してくれました。食品加工班の手作り生ケーキを味わい、サンタさんから素敵なプレゼントが配られました。



## 新年会



生活支援員 片倉 美幸

1月9日に新年会を行いました。お昼には美味しいお寿司と天ぷらを頬張り、午後はおめかしや書初め、カラオケ等好きな事をして楽しみました。普段減多に出来ない活動をして沢山の素敵な笑顔を見せてくれました。



## 節分・豆まき



主任生活支援員 山田 宗成

「鬼は一外！福は一内！！」獰猛な鬼達に勇敢に立ち向かう利用者の皆さん。今年もくすのき苑で節分の豆まきを行いました。投げた豆に込めた願いは「無病息災！」今年も元気で健康な1年でありますように。



## 職員日記



生活支援員 清宮 和博

私の趣味は読書です。私が読書を好きになったのは、大学時代に片道1～2時間程電車通学をしていたのですが、電車内にいる時間があまりにも暇で、途中の駅にある本屋でたまたま1冊のホラー小説を買ったのがきっかけです。ホラー小説を読んだのはこの時が初めてで、その内容の怖さや、表現方法が上手く、現実味を帯びていて、最後の章での話の落とし方も完璧で、心の中でうわあ…と思いつつも、続きが気になってしまい最後まで読み切ってしまいました。この小説は「天使の囁き」というタイトルで、著者は貴志裕介という方で私の好きな小説家の一人です。

ホラーというジャンルの中でも更に細かいジャンルがあり、人の心の怖さを書くサイコホラー、怪奇現象の恐怖を書くオカルトホラー、細菌等の生物学的な恐怖を書くバイオホラーなど、様々な作品を読んでも多種多様で面白いです。これを読んで少しでも興味が湧いたなら、怖いもの見たさで1冊手に取ってみてはいかがでしょうか。

## 新任職員



網谷 理香

3月より生活支援員としてお世話になって  
います、網谷です。

未熟ではありますが、利用者の皆様が明るく  
楽しく快適に過ごせるよう精一杯努力してまい  
ります。よろしくお祈りします。



滑川 雄介

4月からくすのき苑で生活支援員として働く  
事になりました、滑川雄介です。

利用者さんの気持ちに寄り添い、1人ひとり  
にあった支援が出来るように頑張ります。  
宜しくお願いします。

## いらっしゃいの会



生活支援員 大谷 晴香

4月。毎年この時期になると、利用者さんも職員  
も、新しい職員が仲間入りするのでウキウキしてし  
まいます。3月から網谷さん、4月から滑川さんが  
加わり、また賑やかなくすのき苑になりました。「よ  
ろしくね!」「いらっしゃい!」とさっそく利用者  
さんに大人気のお二人に、期待が膨らみます。

## 日本郵便年賀寄付金助成車輛

生活支援係長 伊藤 雅章

ピカピカに輝く新しい車がくすのき苑にやってきました。  
今回はくすのき苑で初めて「車いす対応」の車両です。  
たくさんの機能に職員も四苦八苦しながら挑んでいます  
が、これで安心して外出や通院に行くことができると、  
とてもうれしい気持ちでいっぱいです。

くすのき苑の新しい仲間として、これからよろしくね!



## 行事報告

- 1月** 冬期帰省 (12/29 ~ 1/6)  
新年会
- 2月** 節分、豆まき
- 3月** 健康診断  
理事会、評議員会  
家族会総会

## ご寄付に感謝申し上げます。

今年度も後援会よりご寄付を頂きました。  
おかげさまで法人事業も円滑に運営されて  
おります。  
今後ともご支援ご指導のほど、  
宜しくお願いいたします。



## あとがき

春は別れと出会いの季節である。自分の節目を思い  
出す。新しいことを始めたり、挑戦したり、何かと忙  
しいのもこの季節。一度立ち止まって深呼吸、焦らず  
ゆっくり前に進もう。

(内山)

暖かくなるといろいろ活動したくなる。「あれがし  
たい」「ここに行きたい」など、自分の脳内はこれか  
らのワクワクでいっぱいだ。年度の始まりが春で本当  
に良かった。

(葛原)

## いちいの会だより VOL.50

- 発行 社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑  
〒270-0222 野田市木間ヶ瀬3 1 2 1  
TEL: 04-7120-6667  
FAX: 04-7120-6668
- 発行人 総合施設長 清本 健二郎
- 編集 広報委員会 内山・葛原・中島
- 発行日 平成31年4月吉日
- E-mail kusunokien@nifty.com
- H P http://www.ichiinokai.com/